

学生部

だより



スポーツ施設貸出について（多摩キャンパス）

1. 2003年度休日貸出について

2003年12月より停止します。

2. 2003年度屋外施設の5時限目貸出について

日没が早まったことに伴い、2003年11月より停止しています。

3. 12月以降の利用制限について

以下の期間は、グラウンド整備、アリーナの保守、点検等を行うため、利用できません。

①2003年12月23日(火)～2004年1月5日(月)

②2004年2月4日(水)～2004年2月29日(日)

③2004年3月20日(土)～2004年4月12日(月)

4. 春季休業中の貸出について

2004年3月1日(月)～3月19日(金)1時限～4時限

※ただし、土曜、日曜を除きます。

5. 卒業・学年試験に伴う貸出について

2004年1月6日(火)～2月3日(火)1時限～4時限

※ただし、日曜、祝日を除きます。

◎一般フィールド（ソフトボール・ミニサッカー）については、1月より学生課窓口受付を停止します。降雪・降霜等の天候により、第2体育館事務室の当日判断にて貸出を行いますのでご注意ください。

学生部の窓口時間のお知らせ

学 生 課			
期 間	窓 口 時 間		
～12月22日(月)	月・水～金 火 土	10:00～20:00 13:00～20:00 10:00～12:00	
1月6日(火)～1月13日(火)	水～金 火 土	10:00～20:00 13:00～20:00 10:00～12:00	
1月14日(水)～4月12日(月)	月・水～金 火 土	10:00～17:00 13:00～17:00 10:00～12:00	
厚 生 課			
～12月22日(月)	月～金 土	9:00～19:00 9:00～12:00	
1月6日(火)～1月24日(土)	月～金 土	9:00～19:00 9:00～12:00	
1月26日(月)～4月3日(土)	月～金 土	9:00～12:00 9:00～12:00	13:00～17:00
学 生 相 談 課			
～12月22日(月)	月～金 土	10:00～18:00 10:00～12:00	(火曜日17:00迄／金曜日19:00迄)
1月6日(火)～2月3日(火)	月～金 土	10:00～18:00 10:00～12:00	(火曜日17:00迄／金曜日19:00迄)
2月4日(水)～4月3日(土)	月～金 土	10:00～17:00 10:00～12:00	
理 工 学 部 学 生 生 活 課			
～12月22日(月)	月～金 土	10:00～12:00 10:00～12:00	13:00～19:00
1月6日(火)～2月6日(金)	月～金 土	10:00～12:00 10:00～12:00	13:00～19:00
2月7日(土)～4月10日(土)	月～金 土	10:00～12:00 10:00～12:00	13:00～17:00
アパート等紹介 2月24日(火)～3月26日(金)	月～金 土	10:00～12:00 10:00～12:00	13:00～16:00 13:00～15:00
* 理工学部学生相談室の開設時間は、学生相談室の掲示板（正門脇の総合掲示板と学生相談室入口）に掲示します。			

臨時休業（12月24日(水)）及び冬季休業期間（12月25日(木)から1月5日(月)）は窓口業務は行いません。

2004年2月・3月 春季契約宿舎利用案内

学生部では、ゼミ合宿を始め、各種の合宿のために、「契約宿舎」を紹介しています。学生課または理工学部学生生活課で利用受けを行います。受付開始は、12月10日(水)からとなります。(初日については、ゼミ団体のみの受け)

宿舎名	ホテル美富士園 (河口湖)	富士の宿 おおし (旧名ホテル大橋) (河口湖)	ホテル箱根アカデミー (箱根)
所在地	〒401-0303 山梨県南都留郡富士河口湖 町浅川207 ☎0555-72-1044	〒401-0302 山梨県南都留郡富士河口湖 町小立1168 ☎0555-72-0500	〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町 湖尻160 ☎0460-4-7811
期間	① 2 / 4(水) ~ 9(月) ＜2/8の宿泊まで＞ ② 3 / 5(金) ~ 9(火) ＜3/8の宿泊まで＞ ③ 3 / 26(金) ~ 31(水) ＜3/30の宿泊まで＞	① 2 / 3(火) ~ 9(月) ＜2/8の宿泊まで＞ ② 3 / 26(金) ~ 31(水) ＜3/30の宿泊まで＞	① 3 / 26(金) ~ 31(水) ＜3/30の宿泊まで＞
収容人員	50名	50名	30名
利用料金	1名1泊3,200円 (消費税別) (入湯税1名150円) ＜3食付 宿泊中の昼食あり 最終日の昼食なし＞	1名1泊3,200円 (消費税別) (入湯税1名150円) ＜3食付 宿泊中の昼食あり 最終日の昼食なし＞	1名1泊3,200円 (消費税別) (入湯税1名150円) ＜3食付 宿泊中の昼食あり 最終日の昼食なし＞
交通	電車/新宿駅→河口湖駅 (2時間30分) バス/新宿B T →河口湖駅 (約2時間) 河口湖駅から徒歩20分送迎 バス有 (約10分)	電車/新宿駅→河口湖駅 (2時間30分) バス/新宿B T →河口湖駅 (約2時間) 河口湖駅から徒歩30分送迎 バス有 (約10分)	電車/新宿→小田原→ 箱根登山バス (湖尻桃源台下車) バス/新宿B T → 箱根桃源台下車 徒歩1分

利用資格: 本学の学生・教職員。但し、学生はグループ単位(4人以上)とします。

利用日数: 4泊5日を限度とします。

申込受付日: 12月10日(水)より。1日目はゼミのみ受け、2日目以降は、ゼミ、サークル、その他の団体の受けを開始します。

受付方法: 原則として先着順です。12月10日・11日限り午前10時までに窓口に来た人の中で受付順番を抽選で決めます。早朝から並ぶ必要はありません。

申込時の注意: <重要>①利用日程、②教職員の人数、③男子学生・女子学生の内訳、④大学院学生・OB等の人数についても確認しておいてください。

第2希望の日程または宿舎についても、事前に検討しておいてください。

利用券発行後の人数変更は、他の団体に迷惑がかかりますので、予約時には、人数を確定しておいてください。

手続き方法: 申込日を含めて、**10日以内に申し込み書類を提出してください。**(2週間以内に手続きをしない場合は、予約はキャンセルとなります。)

申し込み書類を提出時に利用券を発行します。なお、書類を提出の際は、利用料金は必要ありません。

料金の支払い: 利用料金は、チェックアウトの際に支払ってください。

[例] 美富士園 1泊2日1名の料金

→@ 3,200円 × 1泊 + 消費税160円 + 入湯税150円 = **3,510円**

美富士園 2泊3日1名の料金

→@ 3,200円 × 2泊 + 消費税320円 + 入湯税300円 = **7,020円**



<その1> 夏に続き、新規に宿舎開設！

* 初のコテージ式登場！

<その2> 人数が多くても相談ください！

湯本楼 (伊豆・河津)	石和びゅーほてる (石和)	*ルネッサ赤沢 (伊豆高原)
〒413-0507 静岡県賀茂郡河津町 湯ヶ野128-10 ☎0558-35-7024	〒406-0024 山梨県東八代郡石和町 川中島1607 ☎055-262-4425	〒413-0233 静岡県伊東市赤沢190-5 ☎0557-54-1670
① 2 / 4(水)～9(月) <2/8の宿泊まで> ② 3 / 26(金)～31(水) <3/30の宿泊まで> * 2/1～3/31の間で、上記以外を希望の団体は学生課にご相談ください。	① 2 / 1(日)～4 / 1(木) <3/31の宿泊まで> * 土曜日の宿泊を除く	① 2 / 1(日)～4 / 1(木) <3/31の宿泊まで> * 土曜日の宿泊を除く
20名	30名	30名
1名1泊3,200円 (消費税別) (入湯税1名130円) <3食付 宿泊中の昼食あり 最終日の昼食なし>	1名1泊3,200円 (消費税別) (入湯税1名150円) <3食付 宿泊中の昼食あり 最終日の昼食なし>	1名1泊3,200円 (消費税別) (入湯税1名150円) <3食付 宿泊中の昼食あり 最終日の昼食なし>
電車/特急踊り子号 新宿→河津 (2時間30分) 又は 伊豆急行 熱海→河津 (1時間30分) 河津駅よりバス15分 「湯ヶ野」下車1分	電車/新宿駅→石和温泉駅 (1時間30分) 石和温泉駅から徒歩20分 送迎バス有(約5分)	電車/特急踊り子号 新宿→伊豆高原 (2時間) 伊豆高原駅から送迎バス有 (約7分)

キャンセル：キャンセル発生の都度、学生課へ申し出てください。

利用券発行前……学生課又は理工学部学生生活課窓口へ申し出てください。

利用券発行後……2箇所へ連絡してください。①学生課又は理工学部学生生活課窓口(利用券を持参してください。)②利用する宿舎

利用開始日の3日前までに連絡をしてください。3日前をすぎると、キャンセル料金2,000円(1名1泊)が徴収されます。【例】3/26利用開始の場合、3/23まで。

参加者の変更：名簿の記入が必要となりますので、速やかに学生課又は理工学部学生生活課窓口へ申し出てください。

チェックイン・アウト：原則としてチェックインは午後3時、チェックアウトは午前10時です。(10時以降は宿泊室の荷物を所定の場所に移してください。)

その他：①宿舎内での生活は、すべてセルフサービスです。宿泊室の清掃、ゴミの処理などを各グループで行ってください。

②代表者は、常に人数を把握しておいてください。

③洗面用具、タオル、寝間着等は各自持参してください。

④【湯本楼・石和びゅーほてる・ルネッサ赤沢を利用の場合】宿舎利用後は、必ず、速やかに所定の用紙にて利用実数をご報告ください。

学生課・理工学部学生生活課

冬季セミナー 今年もやります！

詳しくは、学内掲示板、チラシ、学生部HPまたは
学生課・理工学部学生生活課窓口まで。

昨年度参加者の声より

「オススメ情報」

法学部 谷野真一

噂で聞いた。恐竜たちが地球の温度変化に対応できずに絶滅した、と。そして、巷ではまことしやかに囁かれている。また、地球に氷河期が到来する可能性がある、と。

となれば、何か手を打たねばなるまい。これしかない。すこぶる寒い中でも、優雅に生き抜くにはこれしかない。ズバリ、スキー・スノーボードの習得。この技術を人類のDNAに埋め込んでおけば、子孫たちは助かるかもしれない。いや、きっと助かる。それどころか、「快適やなー、めっちゃ気持ちエエやん」ということにもなりうる。あるいは、「超、快適。ありえないー」かもしれない。

というわけで、みなさんのスキー・スノボへのモチベーションが極限にまで上がったところで、私は、学生部が主催する「冬季セミナー」を紹介することにする。「冬季セミナー」とは、2月初旬（2003年は2月3日～2月6日）に3泊4日で長野県の黒姫高原にスキー・スノーボードをエンジョイしていく企画のことである。そして、私は是が非でも、この「冬季セミナー」への参加をオススメする。理由は5つ。上達する。低コスト。宿泊施設（野尻湖セミナーハウス）が快適。旅としても一級品。そして、何より、かけがえのない友との出会い。

少し説明を加えさせてもらおう。「上達する」のは当然のことである。なぜなら、その道のプロの人たちが2時間を6セット、合計12時間、的確に指導してくれるからである。「低コスト」に関して。これはスゴイ。宿泊代、往復新幹線代（指定席）、先に紹介したスキー・スノボ教



室代金、リフト券代、全食事代、その他もろもろ、これら全部込み¥29,000—（2003年度）。個人で相当する旅行を組むとしたら、たとえ格安バスツアーで宿があまり快適ではないコースを選択したとしても、ザッと概算してみると5万円は下らないだろう。それが新幹線利用の「宿泊施設が快適」なコースになったら、と想像してみたい。まさしく破格であることがわかるはず。野尻湖セミナーハウスに関しては、新築の香りがするといっても過言ではない。食事の提供にも全くもって妥協が見られなかった。

旅は心を豊かにする。その旅がひとり旅であろうと、友人との旅行であろうと、恋人との旅行であろうと、家族旅行であろうと、はたまたグループの旅行であろうと、なんら変わらず人間の幅を広げてくれる。だから、「冬季セミナー」——あたり一面の銀世界、そして壮大な自然の景色。そして、その土地で暮らす人とのふれあい——も無条件に「旅としても一級品」なのである。

さて、同じ部活の仲間と何年も交友が続くのはなぜだろうか。当然に、多くの時間を共有したからというのも理由のひとつだろう。しかし、

それ以上に、苦しみを分かち合ったからではないだろうか。きっと、だからなのだろう。体がクタクタになりながらも、励まし合いながら3泊4日という時間を共有した後に、初対面同然だった彼、彼女たちが、ふっと気づいたときに「かけがえのない友」となっていたのは。

以上のように、私は「冬季セミナー」には5本柱の特典があると確信している。来シーズンからウィンタースポーツを始めようと思っている人、スキルアップしたいと思っている人、あるいは、今までウィンタースポーツに関心すら

なかった人も、学生部主催の「冬季セミナー」の存在を知ったからには、ぜひとも参加することを前向きに検討してみてほしい。きっと、参加してみて良かったと思ってくれるだろう。少なくとも、私も含め、今年参加した人が「マジで良かった」と口をそろえて言っているのは、まぎれもなく事実である。

ところで、昨日、ニュースで知った。なんと、地球の温暖化が深刻らしい。ということは、こちらも早急に手を打たねばなるまい。これしかない。さあ、急いでサウナへ行かなければ。

救急法講習会、家庭看護法講習会を受講して……………

商学部商業・貿易学科3年 鄭 寿彦

夕暮れの駅のホーム、若い男女が言い争いをしていました。口論がだんだんと激しさを増す中、何かの拍子に女性は転倒、言い争いをした場所がホームでも割と線路上に近い場所だったこともあり、彼女はそのまま線路上に転落していきました。さらにその後、運悪く電車が高速でホームに進入、急ブレーキも間に合わず呆気なく女性は電車の下敷きになりました。しかし、その時ホームにいた乗客の協力で、彼女はなんとかホームに引き上げられました。意識はなく、車輪に挟まれたのか既に両足はありませんでした。とめどなく噴き出す血、焦る乗客たち、言葉にならない声を大声で叫ぶパニック状態の男性…。

これは、数ヶ月前に都内の駅で実際に起こった事故です。この時たまたまその場を目撃していた私の知り合いは、迷わず反対側のホームから現場に駆けつけ、周囲に協力を要請して血だらけの女性に止血処置をし、救急隊に引き渡したそうです。この知り合いは、ある体育大学の卒業生で応急処置の方法などを身に付けており、もしこの処理を行わなかったら、出血多量による最悪の事態も想定できたとの事でした。私はこの話を後にその知り合いから聞き、強く心を打たれました。事故の様子も大変ショックでしたが、それ以上に知り合いのとっさの判断力と行動力、また、このような事故現場でもしっかりと手当ができる強靱な精神力と確かな技術力にとっても感動しました。私が救急法の講習会を



受けようと思ったのは、このことがきっかけです。とっさの事態のときに人を助けられるようになりたい、いざという時に人の命を救えることこそ社会貢献の原点なのではないか、と考えました。また、家庭内でいざれ必ず両親などに高齢者介護をするときが来ることを考え、ほぼ同時期に開催される家庭看護法講習会も、一緒に受講することに決めました。

講習会は救急法、家庭看護法ともそれぞれ3日間、1日7時間ずつと少し厳しめのスケジュールです。救急法では、心肺蘇生法や包帯、止血を中心に、生命の危険があるさまざまな状況を想定して学科と実技の両方が行われました。一方、家庭看護法では高齢者の在宅介護を目的とし、車椅子の使い方からベッド上での洗髪方法まで、介護に必要な知識全般をやはり学科と実技を通して学びました。なお、この講習会では試験に合格するとそれぞれ救急員、介助員の資格を取得することができますが、私もなんとか合格し、晴れて救急員、介助員となることができました。また、講習会の指導員は日赤から

派遣されてくる方たちで、すべてボランティアです。受講生である私たちより早く講習会場に着き、後片付けをして私たちより後に帰るこの方たちが「疲れたでしょう」などと受講生に労いの言葉をかけている姿に、私は指導員としてのその純粋な善意と人間的な広さ、本物のボランティア精神を度々感じさせられたりもしました。



人の命を救うことや人を介護することは容易なことではありません。前にも述べたような技術力や精神力などいろいろな力が必要です。私はこの講習会を通して正しい技術を身に付けることができました。そして今、救急員、介助員という資格を取った以上、私はこの技術をいつでも使えるようにしておくことが私の使命だと思っています。講習会が終わり、資格を取ったからといって、私

は安心せずに今後も勉強をつけていくつもりです。いつどんなことが起きても動じない精神力や行動力を持ち合わせ、もし前に述べたような事故に遭遇したときは率先して救急手当ができる私の知り合いのように、また、いつ誰でも介護することができるようになりたいと思っております。

この文章を読まれている方で、もし少しでも関心を抱かれた方がいらしたら、ぜひ救急法、家

庭看護法の講習会を受講されることをお勧めします。日常の中で突発的に起こる事故や、年を経るとともに必ず行うこととなる高齢者介護。これらに対処するための十分な知識を得る絶好の機会です。必ずや受講してよかったと思われることを、私がこの場でお約束いたします。

ファンキーな救急法.....

法学部法律学科3年 中島みどり

前期試験の余韻が未だ消えない夏休みの初め、私は学生部の企画した赤十字救急法講習会を受講しました。この講座は、3日間の集中講義を通して、病気やけがで救助を要する者（以下傷病者という）に対する応急処置を修得することを目的としたものです。

私は1年時に家庭看護法を受講しており、本講座の受講を決定しました。受講生の中には、部活で役立てたいという方の他、バイトの時給UPのためという方やなんとなく受講している方まで、その受講理由は様々でした。

講義は、午前中に学科があり、その内容をふまえて午後に実習を行いました。救急員の認定を受けるためには、3日間1度も遅刻をせず、3日目の試験で合格点を取らなければなりません。一般的に朝に弱い大学生という生き物にとっては、朝9時頃に学校に着いていなければならないのは大変な事でした。仲間同士で朝電をかけ合い、なんとか遅刻は免れましたが、

午後の実習は、主に、2人1組で行います。

1人が傷病者役となり、残る者が救助者役となり、交互に行うのです。ここで、是非読者の皆様にお伝えしたいことがあります。それは3人1組での実習をしていた時の事でした。私の友人Y氏が傷病者役、私ともう1人が救助者役になり、足を骨折した場合の処置について実習していました。仰向けに横たわるY氏、救助者2名は副子を足に当て、固定する作業をしていました。その折、指導員の方から「腰を上げて」との指示があり、何を思ったのか、仰向けのY氏がそのまま腰をもち上げました。模範演技の時に明らかになったのですが、腰を上げるのは傷病者役のY氏ではなく、立てひざをしている救助者の方でした。あまりにもクレイジーな光景に、実技教室が笑いにのめられたのは言うまでもありません。

もう1つ印象に残っている事があります。それはチャーミングな指導員の方々です。自己紹介、指導方法、指導員同士の会話、もう何から何までがファンキーで素敵でした。圧巻だったのが、三角巾による全身被覆でした。最後に顔

が三角巾で覆われた時は涙がちよちよぎれました。その日の晩、夢の中で全身三角巾姿の指導員に追いかけられたのは言うまでもありません。指導員の方々とは良い出会いだったと思います。

3日間、大変と言えば大変でしたが、ファンキーな形で夏休みをスタートすることができとても良かったと思います。

上級救命講習に参加して.....

中央大学理工学部応用化学科 入山直樹

現在、日本で救命技能を身につけている人の数は、海外のそれと比較してずっと低い値となっています。それは、日本人の応急手当に対する意識の低さを物語っているのではないのでしょうか。親や兄弟、友人にもしものことがあった時、何もできないというのはとても悲しいことだと思います。実際に救急隊員は家族あるいは友人の力があれば、その人を救うことができたろう、という場面に数多く直面しているそうです。

この講習ではまず、けが人や急病人（傷病者）が発生した場合、その付近に居合わせた人がすばやく手当てを行なうことの必要性を学びました。その後、実際に人形を使い、傷病者の観察に続き、気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ（心肺蘇生法）を実習しました。私は以前に一度、救命講習に参加していたので、手順の再確認ができました。人工呼吸や心臓マッサージは息を吹き込む量や、胸を押す力が難しいので、繰り返

返し講習に参加し人形を使って確認してみることが大切であり、自信へとつながると思えました。また、異物除去法、止血法、三角巾を用いた外傷・骨折の手当てなどはどれも、すぐに使える実用的なものでした。そして、一定の技能を修めたものには、上級救命技能の認定証が贈られます。

指導をして下さった東京救急協会の方々には現場の活動経験を豊富に持っておられ、実体験を交えながらの指導に私は感心することばかりでした。

いざ、緊急の事態に遭遇した場合、119番通報から救急隊員が駆けつけるまでの5～6分間に、なにか少しでも救命のお手伝いができればと思います。また、今回の講習で学んだことは、家族や友人などに広く伝えたいです。ほんの少しの知識が人の命を救うこともあるのです。

最後に、この講習会を企画して下さいました中央大学学生部、小石川消防署、また東京救急協会の指導員の方々には大変感謝しています。

CAMPUS ACTIVITIES FESTIVAL 2003

入賞作品一覧

学生部主催の「CAMPUS ACTIVITIES FESTIVAL」の作品審査会が11月18日（火）に実施され、審査員の方々が熱心に審査をされました。当日は、学長の角田先生もお見えになり、全作品を詳細にご覧になられた後に「学長賞」を選ばれました。

賞	ジャンル	題名	学部	氏名
学長賞	絵画	ヒロシマの空	文学部	天野華月
優秀賞	絵画	光と影の道	理工学部	山田哲己
	写真	『寝起き』	法学部	藤尾友彦
	書	かな書	経済学部	上野志麻
	陶芸	hana	理工学部	岩永智秀
	ホームページ	SHIRAI LAB website	理工学部	平松義範
特別賞	写真	葩 - HANA -	法学部	山村孝雄
	書	魚戯	理工学部	森野智子
	陶芸	茶碗	法学部	池端一雄
	コンピュータグラフィックス	神秘の山	理工学部	葉山貴史

オピニオン・カードNEWS

No.1

中央大学学生部

「オピニオン・カードNEWS」発行に当たって

学生部委員会

学生部委員会では、このたび「オピニオン・カードNEWS」を発行することにいたしました。

オピニオン・カードは、「広く学生個人の意見・要望を集め、可能な限りその学生の声に大学の広報機関を通じて答える」という趣旨で、1982年度から実施されています。

これまでに、多くの学生のみなさんからの意見や提案が寄せられ、その中で実行可能なことは、すでに実施され、学生生活、大学のサービス向上に、大きな役割を果たしてきました。

最近でも喫煙マナーの指摘や、構内禁煙の要望を受けて、歩きタバコ禁止の広報活動が始められ、喫煙場所を縮小し、吸煙機器を設置するなどの具体的な措置がとられました。

また、北門坂下の二輪車の違法駐車・駐輪問題についても、学生部で立ち番を実施のうえ、車止めを設置し、別途駐車場・駐輪場の設置を検討しました。

このように、オピニオン・カードによって寄せられた声が、大学を動かした例は少なくありません。

ただ、このようなことが余り知られていないために、オピニオン・カードでは扱えない問題が寄せられたり、同じ質問が繰り返されたりする傾向も出てきました。また全体として、寄せられるオピニオン・カードの数も減少傾向にあります。

そこで、オピニオン・カードによる対話を活発にし、キャンパスを一層活性化するために、新たにオピニオン・カードNEWSを刊行することにいたしました。

オピニオン・カードで寄せられた意見や提案を、投函者のプライバシーを守ったうえで紹介し、それに対する回答も可能な限り紹介することで、このNEWSが学生のみなさんと大学との新しい対話の場になってほしいと願っています。

「オピニオン・カード」って？

オピニオン・カードは、中央大学の学生のみなさんの声です。

ふだん、「変だな」「不便だな」「こうすればいいのに」と思うことはありませんか。

みなさんの疑問や意見や提案を「オピニオン・カード」に書いてください。

みなさんの疑問や意見や提案は、それぞれに関係のある大学の各機関へ届けられます。

みなさんの声でキャンパスでの生活や、大学のサービスが改善されました。

みなさんの声が、大学を動かします。何も言わなければ、何も始まりません。

みなさんのプライバシーは完全に守られます。

オピニオンボックスは各学部事務室、学友会、学生課にあります（別紙地図参照）。

カードを出す前に、以下の注意を読んでください。

オピニオン・カード記入上の注意

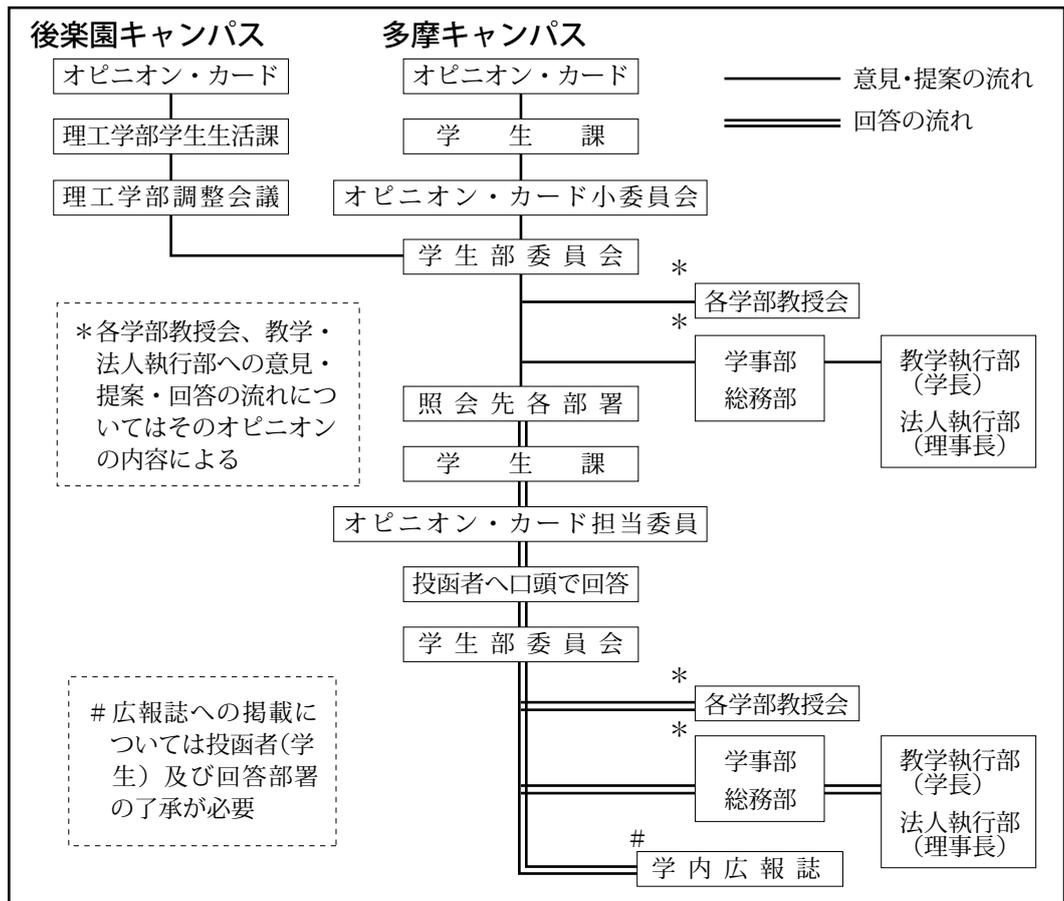
オピニオン・カードに意見・提案を記入し、氏名・学籍番号及び対応（学生部委員による回答の伝達）希望の有無を記入し、オピニオンボックスに投函してください。

対応を希望する場合には、連絡先も忘れずに記入してください。
 氏名・学籍番号などの個人情報、プライバシーは完全に守られます。
 成績評価、学生同士の交流の呼びかけ、他の団体への批判、個人的な誹謗・中傷などは取り扱いません。

制度の概要とフロー

オピニオン・カードは、1982年度から実施されています。
 「広く学生個人の意見・要望を集め、可能な限りその学生の声に大学の広報機関を通じて答える」というのが、その趣旨です。
 オピニオンボックスは、各学部事務室・学友会・学生課にあります。
 オピニオン・カードは2週間に1度、学生課員が回収しています。
 オピニオン・カードは匿名扱いで担当委員から学生部委員会に報告されます。
 学生部委員会で審議し、照会先を決定して、正式に学内各機関に回答を依頼します。
 投函者の氏名・学籍番号は、一切公表されません。
 回答を得たら、学生課で投函者に、学生部委員（各学部教授会から選出された教員）が「口頭」でその内容を伝えます。
 学生部委員会で必要と認めた場合、本人の了解のもとに、匿名でオピニオン・カードNEWSに投書・回答の内容を公表します。
 投書・回答の内容は、最終的に学長と理事長に報告されます。

オピニオン・カードのフロー



オピニオン紹介と回答

以下に、2003年度前期に寄せられたオピニオンの一部と、それに対する回答の概要をご紹介します。このほかにも寄せられたオピニオンの中に、各機関でなお検討中のものがあることを申し添えます。みなさんの積極的な発言を期待します。

オピニオン及び回答事例の紹介

1 経済学部ワークステーションの開室時間の延長について

現在、月～金 10：00～20：00 土 13：00～18：00 開室。

この時間帯では授業時間との関わりなどで利用しにくい。その理由は、

① 5限の授業や、他学部履修で遅くなると利用できない場合がある

② 土曜の開室が午後だけでは使いにくい。

③ 6号館1階ロビーのノートパソコンは、プリンターが無いため使いにくい。などのためである。

なお、商学部は、月～土9：20～21：00 開室。

法学部は、土曜、10：00から開室。

スタッフのいない時間は、カウンター要員を置くか、参考書を置くことも考えられる。利用時間の見直しをお願いしたい。

(経済学部女子)

回答

経済学部WSの開室時間は、通常

月～金 10：00～20：00 土13：00～18：00

です。いつでも自由に利用できる環境を提供することは大事だと考えます。要員の確保・配置と、勤務態勢、十全なサービスの提供、施設設備の保守・管理等、多方面にわたる問題がありますが、当面第1時限の時間帯を利用できるよう検討いたします。

利用環境の改善をはかることは当然のことですが、同時に利用度の向上を期待したいと思います。これからも積極的なご意見をお待ちいたします。

(経済学部)

(注) 2003年10月現在、9：30より利用できるようになっています。

2 3号館ロビーの喫煙について

歩行中禁煙の措置により、歩行中喫煙は減少しており、歓迎したい。

ただ、3号館入口ロビーでの喫煙が目立ち、非喫煙者にはつらいことがある。

禁煙なのか喫煙なのか不明確なので、どちらか明確にし、喫煙可とするなら、換気できるようにするか、空気清浄機を付けて欲しい。

(文学部女子)

回答

3号館入口ロビーは、禁煙となっているので、その旨の掲示をすることにしました。他にも、禁煙の箇所についてはその旨、明示することにしました。

換気装置等、必要な箇所には、順次設置していく予定です。

(学生課)

(注) 2003年10月現在、3号館を含め学部棟内は全館禁煙措置がとられています。

3 食堂の利用状況の改善について

先に席を確保して注文したり、食器を外に持ち出して食事をしたり、所定の場所以外で喫煙したりする人がいる。掲示はあるが、守られていない。善処をお願いしたい。(法学部男子)

回答

ご指摘の席取り、食器の持ち出し、喫煙の問題につきましては、掲示を大きくするなどして、注意を喚起していきたいと思っております。

問題の根本は昼食の座席の不足にあると思っておりますが、最大利用時に合わせて座席を確保することは、コスト面から無理があり、利用者のみなさんの譲り合いに頼らざるを得ません。その点ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、食堂の混雑する昼食時につきましては、お弁当のワゴン販売や、本年4月に開店したCスクエア内の軽食スペース(約250席)も合わせてご利用ください。(厚生課)

(注) 2003年10月現在、内容を改めてサイズを大きくした掲示が掲出されています。

4 図書館の早朝開館について

朝1時限の授業開始時間以前に勉強する場所が欲しい。図書館をあと30分早く開館してもらえないか。(経済学部男子)

回答

図書館は9:00から開館していますので、9:20から開始する授業より前から利用することができます。特に中央図書館4階は開架方式を採っていますし、各学部の履修要項に記載されている教科書や参考書は若干の例外を除いて、購入して基本的に4階の書棚においてありますので、事業前に閲覧することができます。教科書や参考書を広げて机と椅子があれば良いということなら、当該授業科目の実施される教室は開錠されていますから、その教室をご利用になることをご検討いただけないでしょうか。

清掃時間の繰り上げに伴う業者との契約、コスト、人的配置等の問題があって、ご希望には添いかねることをご了承いただきたいと思います。(図書館)

5 シェアステージの利用について

シェアステージの利用者が少なく、個人で活用しようとしてもうまくいかず困っている。もっと普及に力を入れてほしい。また、ワークステーションでIDを発行してほしい。(経済学部男子)

回答

シェアステージは2001年6月から運用開始しています。学生宛にはメールで全員に案内するとともに、各学部事務室や情報処理教室に掲示し、また、チラシを置くなど、利用についての広報を行っています。

このたびの提案を受け、再度事務室と情報処理教室の両方に、利用案内掲示とチラシを置くことを各学部事務室をお願いいたしました。なお、1月10日、学生宛に「利用案内」メールを送りました。今後も適宜広報を行っていく予定です。

なお、現在学部事務室で学生証による本人確認の上、「利用証」を渡しています。ワークステーションでIDを発行することについては、個人情報保護の観点から、実施は困難であることを、ご理解ください。(情報研究教育センター [現多摩ITセンター])

6 返却本コーナーの設置等について

一カ所で様々な分野の図書に接し、自分の関心を広げられるようなコーナーが欲しい。図書館で廃止された新着図書コーナーに代わる、返却本や、リサイクルコーナーなどは設けられないか。

また、図書館に置くのがふさわしい本か否かの判断について、寄贈本の受け入れに関する規準を知りたい。
(経済学部女子)

回答

大学図書館は、学習・研究のため利用されるのが主旨で、一カ所で様々な分野の図書に接し、自分の関心を広げられるような利用の仕方とは、目的が異なると思います。従って、返却本のコーナーの新設は考えておりません。

リサイクルコーナーのご趣旨は理解できますが、場所はむしろキャンパス内の図書館以外の公共的な場所の方がふさわしいと思います。

「寄贈図書」につきましては、現在「寄贈図書の受入基準」に基づいて、学術上評価があり、当館の所蔵資料と重複していないものについて受入をしております。
(図書館)

7 駐輪場での迷惑行為について

7月10日午後5時50分頃から午後8時までの間に、第2体育館側駐輪場に駐車していたオートバイの後部座席シート上に痰を吐かれました。全く理不尽で不道徳な行為です。強く抗議するとともに、二度とこのようなことの起こらないよう訴えたいと思います。
(法学部女子)

回答

構内における学生諸君のマナーについては、学園生活オリエンテーション、冊子「学園生活」、各所の掲示、また、日常声をかけるなどして啓発活動をしていますが、今後とも地道な活動が必要だと考えています。

学生課としましても、今後も引き続き、学内マナーの啓発に取り組んでいきたいと考えています。

なお、今回のご意見については、構内の安全を担当する総務部庶務課にも回付し、担当者に周知してあることを付記します。
(学生課)

停電のお知らせ (多摩キャンパス)

管財部 調達課
// 設備管理課

多摩キャンパス特高受変電設備等定期点検のため、下記の通り停電いたします。

1. 日 時 2003年12月28日(日)
2. 時 間 午前8時30分より終日
2. 範 囲 多摩キャンパス全施設
(屋外運動施設を含む)

なお、パソコン・OA機器等故障防止のためスイッチは切っておいて下さい。差込みプラグはコンセントから抜く必要はありません。

停電のお知らせ (理工学部校舎)

理工学部管財課

電気設備定期点検のため、下記の通り停電いたします。

1. 日 時 2003年12月25日(木)
2. 時 間 午前8:00より午後8:00まで
3. 範 囲 理工学部校舎全館(高校を含む)

なお、停電により断水となります。

オピニオンボックスの置いてあるところ

